

なぜインドは小麦輸出を禁止したのか —国内農業制度が生んだ不安定な輸出余力—

農林中金総合研究所
理事研究員 阮 蔚

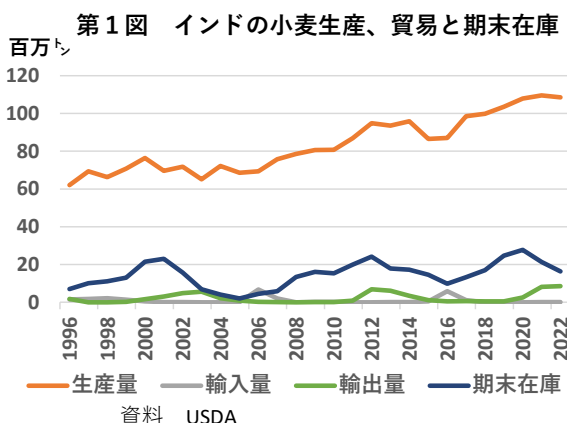
インドのモディ政権が5月13日に出したインドの小麦輸出禁止措置が、高騰を続ける世界の穀物市場にさらに衝撃を与えた。インドは2020/21穀物年度に256万トン、21/22年度には815万トンの小麦を輸出（第1図）、コメ輸出も合わせ、穀物貿易市場で一定の存在感を示すようになっていたからである。今回の小麦輸出禁止は小麦生産地帯のインド北部が100年に1度ともいわれる熱波、干ばつに襲われ、22/23年度の収穫が減少するとの予測に基づいており、国際市場の需給逼迫を受けた経済安全保障的な対応ではない。だが、現実にインドからの小麦調達を予定していたアジア、中東の途上国には深刻な打撃となりかねない。

インドは労働人口の約半分が農業に従事しており、農産物市況は農業生産者でもある大半の国民の生活を揺さぶる。政府は農民の収入安定のため、小麦、コ

メ、大豆、サトウキビ、綿花など23種の農産物で、最低支持価格（MSP=Minimum Supporting Price）に基づく政府買入制度を実施している。MSPは豊作や国際市況の下落などによって、農産物価格が下落し、農民が経済的困窮に陥らずに食料再生産を可能にするためのセーフティー・ネットの目的だが、近年、農民収入を引き上げることで、政治的支持を得るための政府与党と野党の間で政治の道具に化した面も否めない。

最低支持価格を上げると、農民の生産意欲が刺激され、過剰生産になり、政府は無制限に買入れをするため、過剰在庫に陥り、政府の財政赤字も膨張する。従って一般的には与党はMSPの抑制に躍起になる一方、野党は農民票を獲得しようとMSPの引き上げを主張するという構造が農業人口大国のインドにもある。

モディ首相の率いる与党、インド人民党（BJP）は2019年5月の総選挙で、下院（543議席）の303議席を獲得、単独過半数を得たうえに連立与党で348議席を占める大勝利を収めた。その背景にはやはり、2014年に誕生したモディ政権が毎年、MSPを引き上げ、ほぼ一貫してMSPを市場価格を上回る水準に設定していることがある。結果的に小麦の政府買入量は17/18年度以降、年間3000万トンを超える水準に膨張、同時に在庫も積

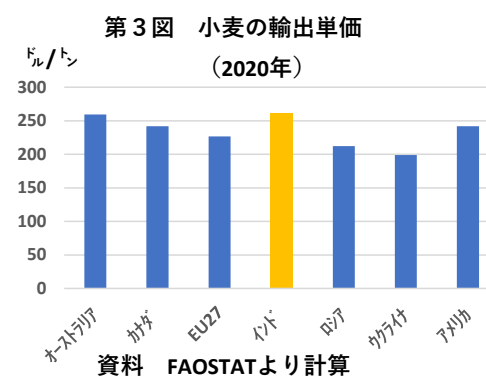
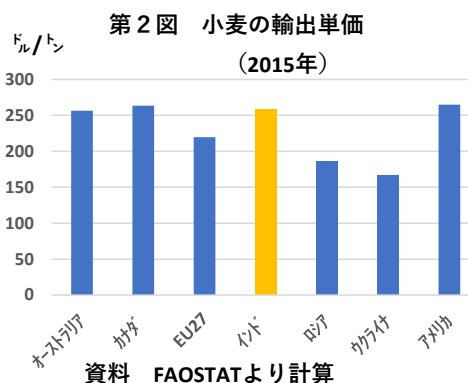


み上がっている。政府は公的分配制度（PDS＝Public Distribution System）を通じて、都市部の低所得層向けに小麦などの穀物を逆ざやで販売するなど在庫削減を続けてきたが、それでも余剰となる分が輸出されてきたわけである。

インドの小麦輸出は、PDS 制度によって生じた過剰在庫がグローバル市場に流出しただけの話であり、インド農業の国際競争力向上というストーリーではない。むしろインドの小麦生産は効率性が低く、単収も低い。インドの小麦輸出単価は2015年に米国と肩を並べ、ウクライナやロシアを30%以上上回っている（第2図）。2020年にはインドの輸出価格は米国、豪州、カナダをも上回っている（第3図）。豪州などとの品質格差を考慮すれば、インドの小麦は本来ならば、グローバル市場では太刀打ちできないだろう。それが、22/23年度には過去最高の850万トンの輸出が予測されていたように、世界的に小麦需給は逼迫している。

インドは今回の小麦禁輸発表の直後にエジプト向けに50万トンを適用外として輸出する考えを示した。食糧価格高騰と不足で国内情勢が悪化するエジプトへの友好的な考えだろう。だが、インドは2006年に672万トン、12年に682万トンの小麦を輸入するなど、干ばつなど天候によってはたちまち小麦の大輸入国に転じる。インドは世界の小麦市場においては不確定要素といってもいい。

もう一点、注視すべき要素はインドとロシアの関係である。インドは対中国では、米豪日と足並みをそろえ、「クワッド」の一員となっているが、対ロシアでは米欧日などとは異なる動きをしている。国連安全保障理事会と国連総会の対ロシア非難決議を棄権したうえ、米欧日などが禁輸措置を決めたロシア産原油をインドはウクライナ侵攻後、ディスカウント価格で大量に購入している。インドは歴史的に旧ソ連、ロシアとの関係が深く、今も兵器輸入の約80%をロシアに依存しているという。モディ政権が小麦禁輸を決めた後、50万トンはとはいえ、エジプトにのみ輸出するのは、ロシア小麦の大輸入国であるエジプトに可能な限り好意を示したと考える関係者もいるかもしれない。注目すべきは、カリなど化学肥料の大生産国であるロシアが肥料価格高騰に苦しむインド農業に手を差し伸べるかどうかだろう。



2022年5月23日
(ルアン ウエイ)